

「男女の能力発揮とライフプランに関する調査」について

1. 調査の目的

男女共同参画社会の実現に向けては、男性も女性も、その能力を十分に発揮できる環境の整備が極めて重要であり、そのための意識改革や女性の就業継続の重要性が指摘されている。

本調査では、これから結婚、子育てといったライフ・イベントを経験する層及び現在経験している層として若年～中年層を対象としたアンケート調査を実施し、それまでの就業状況や就業経験などが能力発揮やライフプランに関する意識に与える影響を把握するとともに、家庭内での役割分担等に対する意識の現状を分析し、今後の施策の参考とする。

2. 調査の対象・方法

調査対象：20歳～45歳未満の若年・中年層の男女

調査方法：インターネットによるモニター調査

（なるべく全国の傾向を把握できるよう、地域別等一定の割付を予定）

回収数等：1万件

調査予定時期：平成21年1月

3. 調査事項

○ 基本的な属性

性別／年齢／婚姻状況／世帯構成／学歴／収入

○ 現在までの就業状況や就業経験

これまで経験してきた就業形態／初職・現職の状況（就業形態、職種、職場の状況、仕事の内容）／仕事を辞めた経験とその理由

○ 仕事に関する今後の希望と能力形成の状況

今後希望する働き方（現在・将来）／能力形成のためにしていること

○ 家庭内での役割分担等に対する意識

女性のライフコースに対する意識と実際／配偶者との役割分担に関する意識と実際

○ 生活面に関する意識

現在の悩みごと／相談する相手

4. 設計の視点

(1) 女性の能力発揮と就業継続

結婚・育児に際しての女性の就業継続に関し、仕事のやりがいや将来の見通しの有無等、職場において女性の能力が発揮できる環境にあったかどうかは、就業継続をめぐる判断やその後のキャリア形成への意向に対してどのように影響を与えているか。

【例】

- 結婚・育児を理由とする離職について、職場における仕事のやりがいや人事評価・処遇への満足感、将来への見通しの有無等は、その判断にどのように影響しているか。
- 職場において能力発揮の機会が与えられる経験は、結婚・育児の際の就業継続や、管理職に就くことに対する意識など、その後の能力発揮の状況や意識に対してどのような影響を及ぼすと考えられるか。

(2) ワーク・ライフ・バランスと能力発揮

ワーク・ライフ・バランスの推進は、仕事における能力発揮への意欲に対して、どのような影響を及ぼすと考えられるか。

【例】

- 管理職自身も対象に含めたワーク・ライフ・バランスの推進は、管理職に就くことに対する意欲についてどのような影響を及ぼすと考えられるか。
- 就業形態を選択する際に、正規雇用に伴う時間的拘束に対する負担感は、どのような影響を及ぼしていると考えられるか。

(3) 教育や就業経歴がキャリア形成に与える影響や無業者・非正規雇用者をめぐる状況の分析

無業・初職での非正規雇用等も含めた就業経歴や教育は、その後のキャリア形成や能力発揮等にどのように影響しているか。また、その影響について、男女差が見られるか。

無業や非正規雇用の状態が長期化する要因や、生活不安への影響はどのようなものか。

【例】

- 初職の就き方や、その後の離転職やキャリア形成に、教育はどのように影響しているか。その状況は男女で違いがあるか。
- 非正規雇用者や無業者が描くキャリアプランとはどのようなものか。そのキャリアプランに向かって障害となっていることはどのようなものか。

(4) 男女共同参画をめぐる意識を規定する要因

家庭内の役割分担や性別役割分担をめぐる意識に影響を与える要因はどのようなものか。

【例】

- 調査対象となっている中年以下の世代では、家庭内の役割分担や性別役割分担をめぐる意識はどのようなになっているか。
- 男性のみが家計を支えることの負担感等、職業選択や経済状況に対する意識は、配偶者間の役割分担や女性のライフコースに対する意識にどのように影響していると考えられるか。